

\* 資料の無断転載・コピーはご遠慮ください

# キャリア教育の最前線

児美川 孝一郎

KOMIKAWA, Koichiro

(法政大学 キャリアデザイン学部 教授)



# 《早わかり》 最初の問題提起



1. キャリア教育の転換のイメージ
2. これまでのキャリア教育の落とし穴
3. 新しい学習指導要領とキャリア教育
4. どんな転換が必要か



# 1. キャリア教育の転換のイメージ



# 派手なキャリア教育

職場体験・インターンシップ

夢（やりたいこと）

社会人講話

適性検査

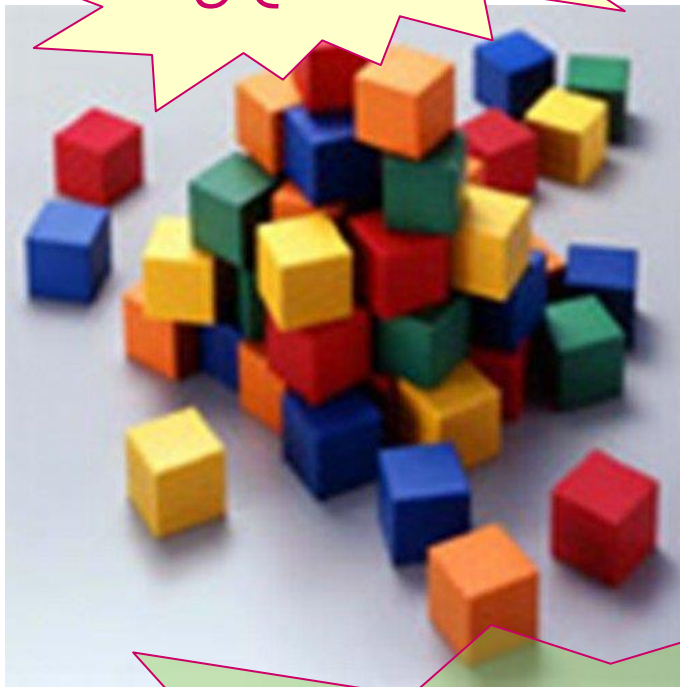
職業調べ

ライフプラン



# 地道なキャリア教育

授業を通じて



HR活動  
で

学校行事で

委員会活  
動を通して

節目には、総合の時  
間等でキャリア学習



# 実践的な強調点の移動



「キャリア支援から出発」→「社会的  
自立という土台づくり」

「イベント」型→「日常」型へ

職業や働くこと重視→ライフキャリア,  
学びを重視

「やりたいこと」や夢をどう実現するか→社  
会とかかわって、どう生きるか





## 2. これまでのキャリア教育 の落とし穴





# 落とし穴① 「やりたいこと」主義

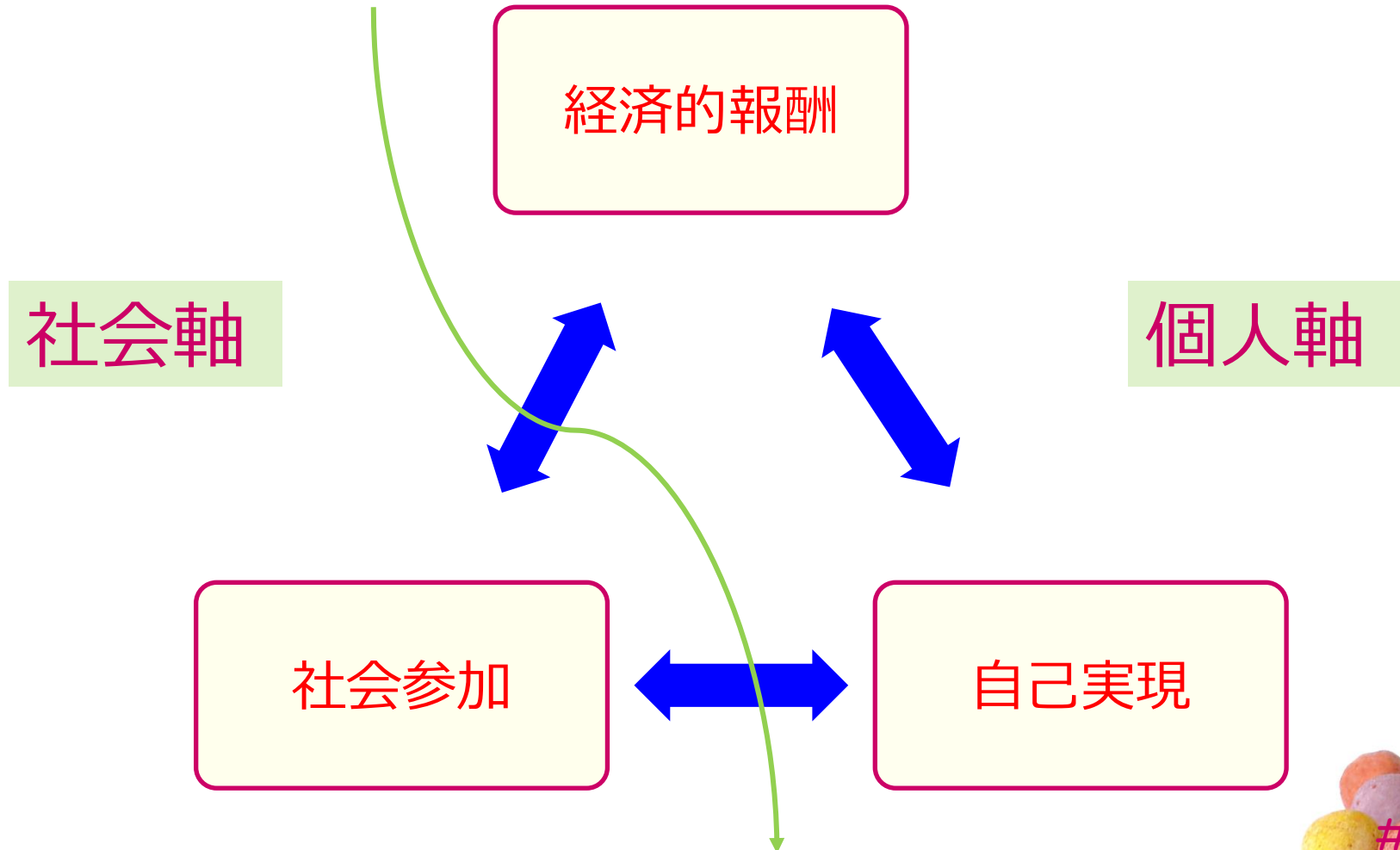


- 「夢」や「やりたいこと」で、子どもたちの意欲を喚起できる側面はある
- 「就社」社会の現実
- 視野や選択肢を狭める危険性
- ある意味での「自己実現」信仰、「適職」信仰を生むおそれも
- 「やりたいこと」は、社会理解、労働・職業理解を深めることとの往復関係の中で、“育てて”いくもの

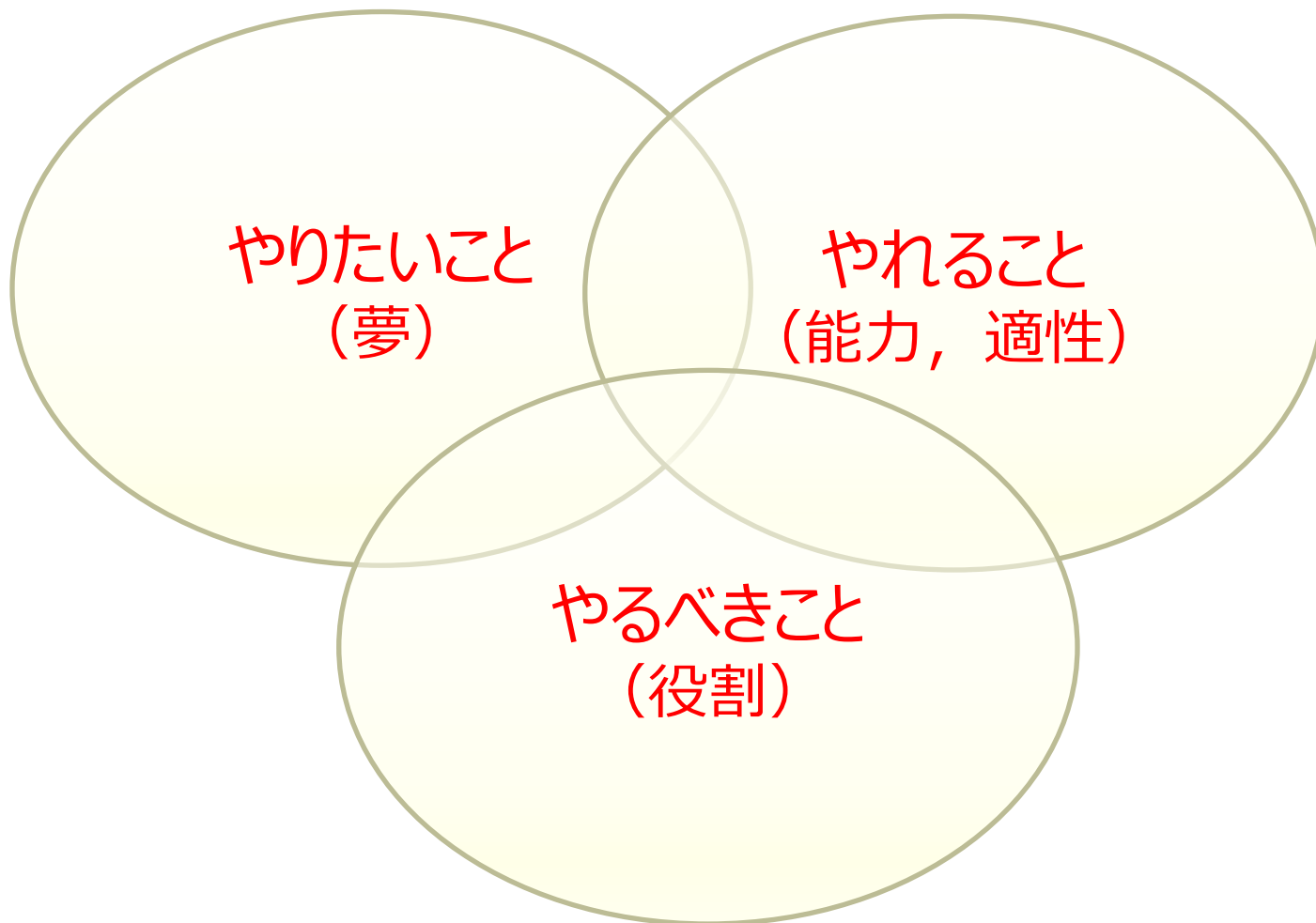




# 人はなぜ働くか？ - 社会軸へ



# 意識させたい三つの視点



## 落とし穴② 職場体験・インターンシップ



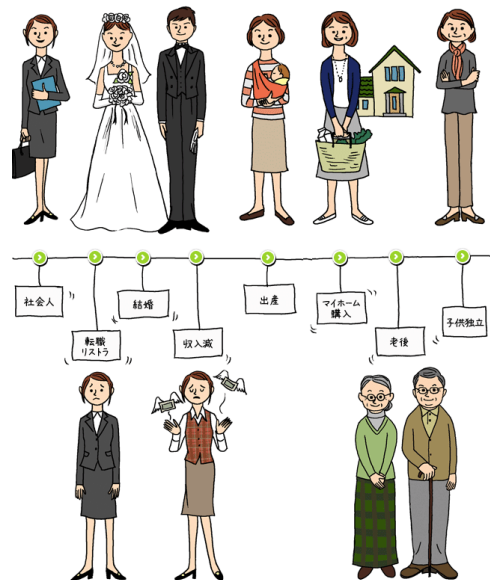
- きっかけにはなる。ただし、やりっ放しのイベントになってしまうと、かえって・・・
- 「事前学習＋まともな労働参加＋事後学習」のサンドイッチ型になっているか？
- 学校教育の中では、本来、特別活動（学校行事、委員会・生徒会活動・・・）の中で、多様な「社会」体験をさせてきたはず



# 落とし穴③ キャリアプラン



- 「将来」について考えさせる, 「見通し」を持つという発想を身につけさせることは大切だが・・・
- プランニングの前に, 人生のライフステージ上の諸課題やリスクについての認識を豊かに持たないと・・・



# 今後の社会変化という視点



- 今ある社会の価値観，親世代の価値観をなぞるだけでは意味がない →社会変化の視点がない
- 短期・中期的には，「キャリアプランニング」の発想を持ちつつも，その途上で現れる「偶然のチャンス」も生かす
- うまいかなかった時でも，次につなげることのできる力をつけるのが，キャリア教育



## 落とし穴④ イベント主義



- キャリア教育が、結局のところ、適性検査、職場体験・インターンシップ、社会人講話、職業調べ、キャリアプランの作成等の一過性のイベントと見なされてきた
- もちろん、イベントを継続し、積み上げることで一定の効果は期待できるが、日常の教育活動との往還や連携がない
- 投入できる資源（時間、人、物、カネ）の面で、おのずと限界が・・・





# 3. 新しい学習指導要領 とキャリア教育





# 新学習指導要領におけるキャリア教育

- 現行の学習指導要領と比較して、明確な規定が与えられた！
- 中学校学習指導要領（2017年）  
第1章「総則」第4「生徒の発達の支援」1（3）
- 「生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。」



# 特別活動における位置づけ



- 中学校学習指導要領（2017年）  
第5章「特別活動」の「学級活動」2（3）
- 「一人一人のキャリア形成と自己実現」を柱に
- 具体的には、「社会生活，職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成」「社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」「主体的な進路の選択と将来設計」を促す活動
- 「活動を記録し蓄積する教材等」の活用（＝キャリアパスポート）



# 各教科等における位置づけ



- 「学ぶことと自己の将来とのつながり」（総則）「主体的な学習態度」（特別活動）
- 「学ぶことに興味や関心を持ち，自己のキャリア形成の方向性に関連付けながら，見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』」（「中学校学習指導要領解説」総則）
- 新学習指導要領においては，各教科等の学びそのものが，キャリア教育として位置づく  
→育成をめざす資質・能力の三つの柱



# 育成すべき資質・能力



学びに向かう力  
人間性等

どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を  
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか  
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる  
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

# 全体構図をどう読み解くか



- キャリア教育が、学校教育全体で取り組まれるべきであることは、大前提
- キャリアに関する学習や体験に焦点を当てた「狭義のキャリア教育」 → 特別活動を軸に
- 直接にキャリアに関する学習や体験ではなくても、キャリア教育としての効果を持つ「広義のキャリア教育」 → 各教科等を含めて





# 4. どんな転換が必要か



# 基本的な方向性



- これまでのキャリア教育の問題点や落とし穴を克服しつつ
- 学ぶことと社会をつなぎ、学ぶことと生き方をつなぐ
- 新しい学習指導要領を先取りしつつ、高大接続改革にも対応する



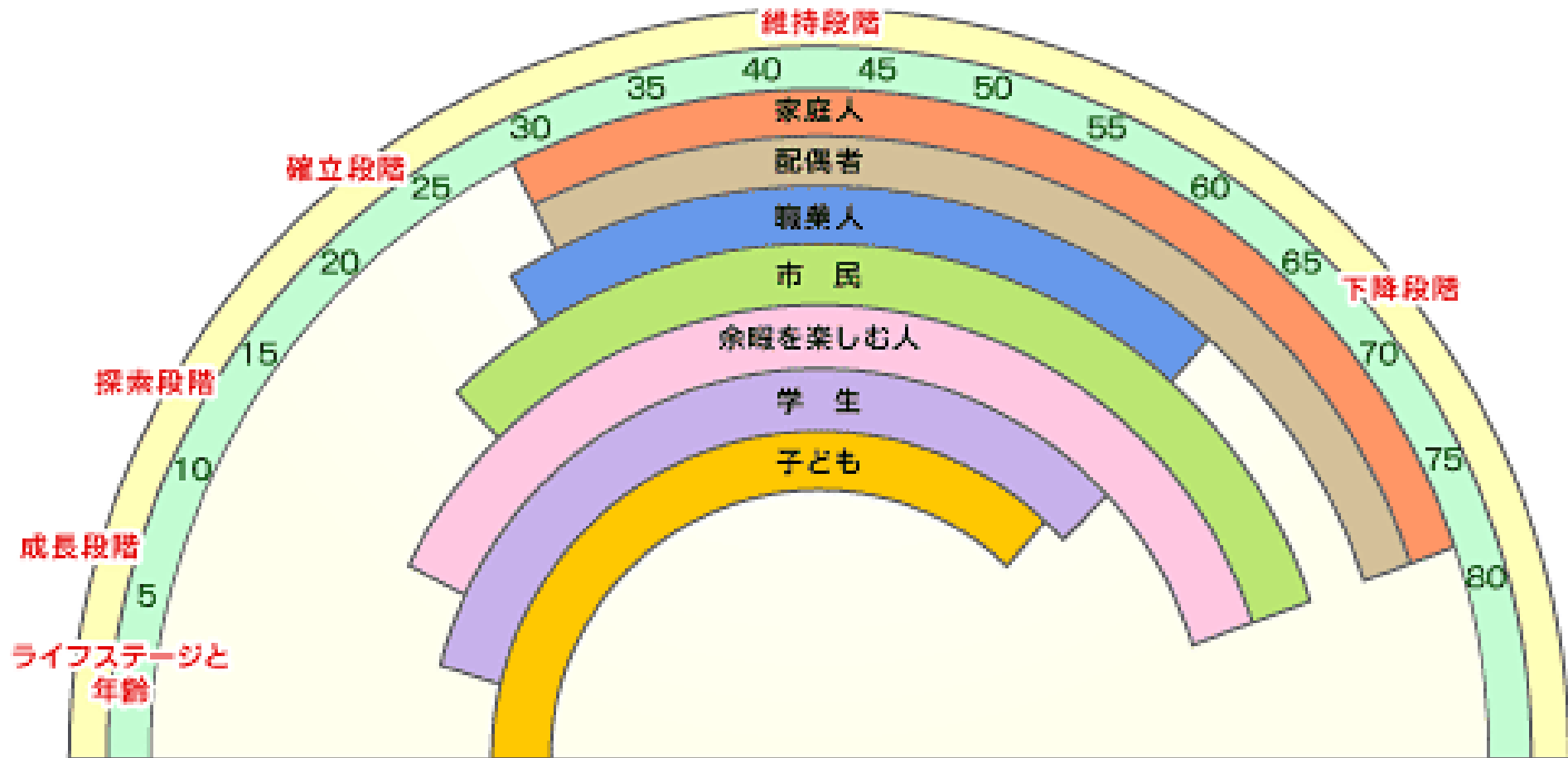


# 学校におけるキャリア教育の役割

- 学習者としての「役割」を自律的に遂行していく能力を培うことが、大前提
- ↓
- それが、その後の「働く者」「家族を営む者」「市民」・・・等々の「役割」を自律的に遂行していく能力形成の準備になる



# キャリア発達の課題



「キャリアレインボー」(D.E.スーパー)



# キャリア教育をどう進めるか



- 二段構えのキャリア教育
  - 広義～学校の教育課程全体が career education-oriented であるべき
  - 狭義～生徒に意識化・内在化させるためには、キャリアの学習・体験に焦点を当てた教育活動を
- 学校の「内」と「外」を“つなぐ”視点，教育課程の全体を“つなぐ”意識が大事
- 教師の役割は，実践者＋コーディネーター



ご清聴， ありがとうご  
ざいました

[komikawa@hosei.ac.jp](mailto:komikawa@hosei.ac.jp)  
<http://www.facebook.com/koic>  
hiro.komikawa

